

がまんや忍耐ではない 炭素文明からの脱却という新たな挑戦！

ドキュメンタリー映画

ヴェンデ

Wende 2

未来の足跡

環境学研究科 杉山範子特任准教授(附属持続的共発展教育研究センター)の活動に
100日間密着したドキュメンタリー映画です

地球沸騰化の時代に いま私たちにできること

今回、市民の皆様にご覧いただく機会に
していただくため、「ドキュメンタリー映画 Wende2」の
上映会を開催します。

どなたでも参加できます。

多くの市民の皆様のご来場をお待ちしています。

プロデューサー

竹内 守

監督 高垣 博也

撮影 安田 淳一

照明 はのひろし

録音 岩瀬 航

音楽 小林 一尚

杉山範子

日時

令和6年1月13日(土) 13時30分上映

会場

志布志市有明地区公民館

(志布志市役所有明庁舎隣)

(13時00分開場)

入場無料

主催: 志布志市衛生自治会 共催: 志布志市

問合せ先/TEL: 099-474-1111 志布志市役所市民環境課



オセロの駒がひっくり返っていくみたいに、持続可能でない社会を地域からひっくり返して持続可能にしていくことをめざしたい

社会の仕組みを変える

今、多くの方が思っている地球温暖化対策は、CO₂の削減です。

2021年、気候変動対策の一つの柱である緩和策として自然エネルギーの取組みを紹介した「ヴェンデ～光と水のエネルギー～」を制作しました。

省エネや節電は個人で参加できる大切な温暖化対策ですが、自然エネルギーへの転換は、個人レベルでは取り組みが難しいものです。

しかし、今、温暖化対策の遅れが気象災害の激甚化を招いています。地域によって対策は異なりますが、生活スタイルを変えていくことが重要です。これを「適応策」と言います。それは様々な分野に及び、地域によって異なる対応が求められています。

緩和策と適応策

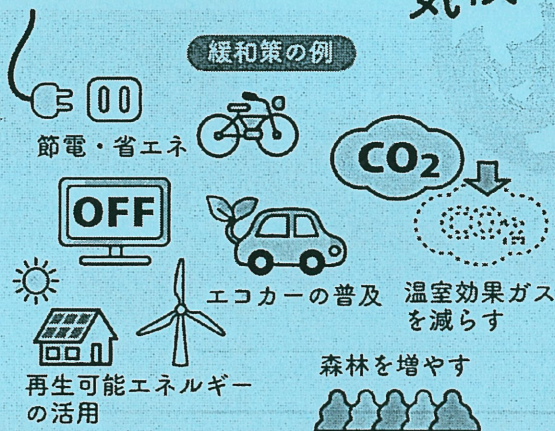
CO₂を減らすという「緩和策」は地球規模で行われますが、適応策は自分自身の健康であったり、食料の問題であったりします。地域の問題であり、それは必ず解決しないとイケない課題です。地域にどんな弱点があるのか、どんな影響が出やすいのか？地域で考えて対策が必要になります。だからこそ、「適応策」は難しくなります。

社会、経済、文化、すべてに気候は関わっています。それが根本的に変わっていくのが気候変動。変わる気候に対して私たちは適応せざるを得ません。農業、健康、防災などの分野、それぞれが別のことではなく、全部やらなければなりません。すべての分野、すべての地域にあるからこそ、身近な対策でもあります。

身近にある変化を感じ、個々人が地域を知り対策していかなければなりません。

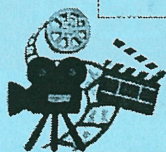
緩和 とは？ 2つの 適応 とは？

原因を少なく 気候変動対策 影響に備える



気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること(緩和)が重要です。

緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと(適応)が重要です。



主な出演者

杉山 範子/名古屋大学大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター特任准教授
一ノ瀬 俊明/(研)国立環境研究所上席研究員 社会システム領域

浜田 崇/長野県環境保全研究所 自然環境部 温暖化対策班
松井 利夫/陶芸家 かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー
島田 勇巳/高槻バイオチャーエネルギー研究所
井上 保治/一般社団法人 日本クルバジ協会 理事
布施田 雅浩/(有)童仙房茶舗

WENDE(ヴェンデ)とは…
ドイツ語で「大改革」の意味。化石燃料から自然エネルギーへと転換するエネルギー革命の意味でも使われます。